

A04 データ活用で進める業務連携		<p>【受講対象】</p> <p>種々たくさんあるデータから活用すべきデータを抽出したい方</p> <p>知識を深めたい方、活用方法を知りたい方</p>
<p>【概要】</p> <p>所有するデータを経営資源として管理し、活用することで、社内外の業務の連携を強化できることを理解する。</p>		
<p>会場：独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 愛知支部 名古屋事務所 (名古屋市中区錦1-10-1 MIテラス名古屋伏見5階)</p> <p>講師：伊藤 彰規 (株式会社東京ナレッジプラン)</p>		
カリキュラム		
<p>■ データ活用の基本 《2h》</p>	<p><u>データと情報の違い</u></p> <p>データと情報の基本的な内容を説明すると共に、生産現場では多種にわたるデータや情報が散在することを理解する。</p>	
	<p><u>欲しい情報を得るためのデータ選別</u></p> <p>生産現場には大量のデータが有り、実際に必要なデータとして、どういう基準で選別するかについて具体的にデータを示しながら解説する。</p>	
	<p><u>データ活用のために必要なルール</u></p> <p>データを活用するために必要なルール (いつ、何を、どうやって など) について解説する。</p>	
	<p><u>データの種類と型、入力のルール</u></p> <p>会社の中には数多くのデータが有り、そのデータの種類について、分類すると同時に、データのタイプやその入力ルールについて解説する。</p>	
	<p><u><演習1>データ活用の基本</u></p> <p>生産に必要なデータの棚卸しを行い、どのようなデータを扱うのかを確認し、データがすべて整っているのかを学習する。</p>	
<p>■ データマネジメント 《2h》</p>	<p><u>データの品質管理</u></p> <p>生産現場で活用するデータは一定以上の品質が確保されたもので、その品質管理としては信頼度や鮮度が必要であることを解説する。</p>	
	<p><u>データ管理のための統制</u></p> <p>収集したデータは企業にとって重要なデータであるため、データ管理方法の統制が必要になる。そのあり方について解説する。</p>	
	<p><u>データの収集と蓄積</u></p> <p>各工程で収集したデータと、その蓄積方法についてどのように管理するのかを解説する。</p>	
	<p><u>データの共有と連携</u></p> <p>自工程に必要なデータが他工程でも必要とされることを解説し、そのデータに何か新しいデータを追加することで多くの工程で連携することを解説する。</p>	
	<p><u><演習2>データマネジメント</u></p> <p>生産工程で必要とするデータを紐解き、どこの部署で必要とするデータかをまとめ、どこで保存し、管理することが最適かをグループワークで検討する。</p>	

<p>■ データ活用と 業務の連携 《2 h》</p>	<p><u>社内データの統合と管理</u> 社内で扱うデータはきちんと管理されていないことを解説し、管理されたデータは必要な時に必要な部署が利用できるようなしておくことを学習する。</p>
	<p><u>IT新技術を活用（IoT,クラウド、ビッグデータ）したデータ活用</u> 各種のIT技術を活用したデータ活用方法について解説する。</p>
	<p><u>データ活用による業務連携事例</u> 必要なデータは一つの部署だけではなく他の部署でも必要な場合もあることを解説し、業務を通じて連携していくことを学習する。</p>
	<p><u><演習3>データ連携と業務の連携</u> チーム間でデータを連携しながら業務を進める演習を実施する。その中でデータがどのような状態になっていることが活用し易いのかを体験する。</p>